

『現地を訪問して思うこと』

東北地方は、約30年前、10年前くらいに仕事で訪れていた場所であり、風光明媚な観光地や食べ物もおいしく頂いた思い出があり、震災後の報道やテレビ・書籍だけでは見えない部分を自分の目で以前訪れた場所等を今一度確認したいと思っていました。

ただ、現在の私の住まいは福岡で、訪問するには少し遠く感じていましたが、機会がないものかと常々感じていました。昨年校友会誌で東北応援ツアーが実施されていることを知り、たまたま現在仕事の関係で千葉県にいるため、地理的ハンデが減少したため、是非本年は参加したいと思っていました。

今回のツアーの中で、感じたことは地域によって復興の進度があまりにも違うことです。

女川町や石巻の漁港などの整備・復旧に比べて、我が校友であるささ圭の佐々木さん御夫妻が経営されていた、閑上地区の未だ復興が手つかずの状況、360度灰燼に帰した集落を目の当たりにした時、言葉にならず悲しくて・切なくなりました。

400年に一度の規模の地震・津波では、誰もが想像すらできなくて当たり前ではあるが、しかし、その中で復興対策に奔走された佐々木さん御夫妻のご苦勞を思うと、いかばかりかと推察いたします。そんな中で、我々訪問者に温かく接していただき逆に、こちらがパワーをもらって帰りました。

女川町復興計画図



復旧したJR女川駅舎



石巻港のかさ上げされた岸壁



おいしく頂いた昼食のすし



未だ手つかずの復興地 閑上地区



最後に一つ残念なことがあります。

時間的には比較的余裕があったので、東北随一の銘札瑞巖寺に訪問できなかったことです。

是非来年以降にもこのツアーがあれば、見学ポイントに追加されてはいいかなものかと思っています。宮城県在住の先輩と夕食も忘れて、話しこんだことなど今回のツアーに参加する機会を得て、有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

たくさんの土産を買って少しでも復興のたしになればと思います。

また、来年は福島県ツアーに参加したいと思います。